

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「明るく、たくましく、心爽やかな」国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。 —Well-being な学校づくりを推進しすべての子供たちの可能性を最大限に引き出します— 1. 夢・目標を主体的に見つけ、進路実現に向けて自律的に行動できる生徒を育てる。 2. 知的好奇心が旺盛であり、自ら学び考え、自己の可能性を広げるため粘り強くチャレンジする生徒を育てる。 3. 地域や国際社会の一員としての自覚の下、自らの義務と責任を認識し、集団に貢献する意欲のある生徒を育てる。 4. 他者を思いやり、尊重し、互いに認め合い、協働にて行動できる生徒を育てる。
--

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成 (1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究し、新しい時代に対応できる「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の育成に取り組む。 ア 学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、授業力を軸にその実現へ向かう。 イ 学力向上委員会を中心に相互授業観察、研究授業、勉強会等の計画的な実施、教員個々における授業アンケートの効果的活用等、授業改善に組織的に取り組む。又、ICT 機器を効果的に取り入れ個別最適な学びと協同的な学び、一斉学習の併存的な展開、音読を各教科・科目で実践し読解力を高める等、学びの深化を図る。 ※学校教育自己診断（生徒）における授業満足度の肯定的回答（R3-74%、R4-82%、R5-82.3%）を令和8年度まで75%以上を維持する。 ウ 新学習指導要領に対応した適切で特色のある教育課程を追究する。
2. 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成 (1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。 ア 3年間を通した継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および地域や福祉・労働関係機関等と連携を深めキャリア教育を推進する。 イ 3年間を通した計画的な講習の実施により、早期からキャリア形成を見通し努力させる。 ※実力考査の結果の分析を行い、学習支援クラウドサービスなどを活用し継続的な進路指導を行う。 ※学校教育自己診断（生徒）における進路に関する情報提供の肯定的回答（R3-87%、R4-92%、R5-91.2%）を令和8年度まで85%以上を維持する。 (2) 各授業、HR、「総合的な探究の時間」や学校行事等を通じ、探究的に学び、問題発見・解決能力や論理的思考力、表現力、協働性等を向上させる機会を確保し、キャリア発達を促す。 (3) グローバル人材の育成 ア 関係機関との連携や海外の学校との友好交流、SDGsの視点を踏まえた授業やHR、「総合的な探究の時間」、特別活動等の実施を奨励すると共に、英語運用能力の向上を図るなど、国際理解教育を推進する。 ※学校教育自己診断（生徒）における「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答を（R3-63%、R4-82%、R5-82%）令和8年度まで75%以上を維持する。
3. 安全安心で魅力のある学校づくり (1) 規範意識を醸成する等、個々の生徒への発達支援的生徒指導体制を充実させ社会の一員としての自覚を促す。 ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握、教員間で共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。 イ 関係機関との連携にて校内支援体制を充実させ、すべての生徒の学びと育ちを支援する。 ウ 互いの違いを認め合い、「ともに学び・ともに育つ」精神を育成し、学校に行くのが楽しいと感じる環境を作る。 ※学校教育自己診断（生徒）における人権について学ぶ機会の肯定的回答（R3-89%、R4-92%、R5-89.8%）を令和8年度まで85%以上を維持する。 ※年間の遅刻数を令和8年度まで2,000件以下を維持する。（R3-1,970件、R4-2,067件 R5-2469件） ※学校教育自己診断（生徒）における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答（R3-82%、R4-85%、R5-86.4%）を令和8年度まで75%以上を維持する。 ※学校教育自己診断（生徒）における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答（R3-80%、R4-85%、R5-83%）を令和8年度まで80%程度を維持する。 (2) 特別活動や生徒会活動を活性化させ生徒の自己肯定感や自尊感情を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。 ア 部活動や文化祭、体育祭などを通して生徒の主体性や、人間関係を豊かに構築できる協働性を向上させる。 ※学校教育自己診断（生徒）における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（R3-82%、R4-84%、R5-89.9%）を令和8年度まで80%以上を維持する。 ※学校教育自己診断（生徒）における「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（R3-78%、R4-88%、R5-93.0%）を令和8年度まで80%以上を維持する。 ※生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的回答（R3-97%、R4-98%、R5-98.8%）を令和8年度まで90%以上を維持する。
(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者等との連携および環境の整備を行う。 ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。 イ 美化活動等の環境整備 ウ 「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などに対する危機管理体制を充実させる。また、保健所や学校医、関係機関等との連携にて、食物アレルギーに係る事故防止や、熱中症や感染症等に係る対応を充実させ、保健・安全・衛生管理に対する指導の徹底を図る。 ※学校教育自己診断（保護者）における「家庭への連絡や意思疎通」（R3-79%、R4-77.5%、R5-74%）を令和8年度まで75%以上を維持する。 ※学校教育自己診断（職員）における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（R3-70%、R4-77.8%、R5-76.5%）を令和8年度まで80%程度をめざす。
4. 地域・保護者と連携した学校づくり (1) 広報活動を活性化し、本校の取組みを中学生や保護者、地域に発信する。 ア Web ページおよびブログを定期的に更新し、本校の取組みを地域・保護者に発信する。 イ 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。 ※学習支援クラウドサービス登録者（R3-100%、R4-100%、R5-100%）の在籍者に対する割合を100%とする。 (2) 地域との連携に取り組む ア KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を発展的に継続させる。 イ 地域の学校等との連携を活発に行う。 (3) 関係機関と連携した保護者向け進路説明会の実施や保護者への実効ある進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の方法や内容を充実させると共により効果的な方法にて進路情報を発信する。 ※学校教育自己診断（保護者）における進路に関しての情報提供（R3-66%、R4-63%、R5-62%）を令和8年度まで60%以上を維持する。
5. 教職員の資質向上と意識改革 (1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務にあたる。 ア 運営委員会が中心となり日常的にOJTを推移する等、校内での情報共有や意思統一を図り組織目標の達成に向かう。

府立貝塚南高等学校

イ ICT 機器を効率的に活用し、さまざまなデータや情報の共有を行うと共に、事務作業、会議運営の効率化等を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 (2) 校内での教職員研修を充実させると共に外部で実施される研修等への積極的な参加を奨励する。 ア 教職員の資質向上をめざした研修を計画的に実施する。 イ 校外での研修等により、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。 (3) 校務運営の効率化を図る等、働き方改革の取組みを推進し教員が生徒と向き合う時間や自らの資質・能力の向上を図る時間を増やす。 ア チームで働く力を向上させ、働きやすい職場環境の整備に努める。
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【保護者に関して】結果の詳細はHPをご覧ください。 ・13項目中6項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は、[⑥学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に、きめ細かく行っている：76.4→78.0][⑦学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている：70.6→75.7][⑧学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている：64.1→65.2][⑨学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる：35.3→40.1][⑫学校の授業参観や学校行事に参加したことがある：44.2→53.4]等である。 あらゆる場面において、すべての子ども達の成長と自己実現を柱に、多様な主体と連携し、チーム貝塚南を意識した教育活動を推進した。特にタイムリーな教育情報の提供等、本校の存在意義が保護者を中心とした外部に浸透しつつあると捉えている。ポイントを下降させた項目は[③子どもは、授業がわかりやすいと言っている：71.8→54.8]である。生徒の受け止めは、ここ数年8割程度の肯定的ポイントを維持している。今後、受け止めが乖離している現状分析と共に、更なる授業力の向上に努めたい。 【生徒に関して】結果の詳細はHPをご覧ください。 ・21項目中10項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は、[⑦学習の評価は、テストの点だけでなく、努力や授業に取り組む姿勢等をふくめて行われている：86.1→90.7][⑩ホームルーム活動等のクラス活動は活発で、よくクラス全体で取り組んでいる：85.4→90.0]等である。⑦については観点別評価の定着、⑩については、文化祭・体育祭・貝南サミット等生徒の主体性を引き出す教育活動の定着が要因と捉えている。又、微増ではあるが[⑫先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる：86.2→89.4][⑬先生は、悩みごとや相談ごとを聞いてくれる：86.5→89.9][⑭担任の先生以外にも保健室や相談室等で、気軽に相談することができる先生がいる：68.6→71.1][⑳図書館の図書などを利用する：22.8→25.4]等である。トータルにスクールミッションの骨子である Well-being な学校づくりが浸透しつつあると捉えている。ポイントを下降させた項目は[②授業はわかりやすい：82.3→78.4]である。ここ数年8割程度の肯定的ポイントを維持しているが教職員研修や相互勉強会を充実させ更なる授業力の向上に努めたい。 【教職員に関して】結果の詳細はHPをご覧ください。 ・27項目中18項目において、昨年度より肯定的な回答ポイントを上昇させている。上昇させた主な項目は生徒に関する情報共有や生徒へ寄り添う姿勢の項目が大きく上昇している。教職員間における生徒指導提要理解と多様な主体と連携した対応が浸透しつつあるためと捉えている。ポイントを下降させた項目は[⑭到達度の低い生徒への学習指導を、全校的課題として取組んでいる：53.0→48.0]の項目である。保護者の受け止めとも合致している。今後、組織対応について研究を深めたい。 【全体として】 ・今年度の診断結果より、チーム貝塚南としての教育活動が内外に浸透しつつある。特に、子ども達の受け止めから学校力の向上にて答えを感じた。今後も教職員一同、すべての価値判断を子ども達の成長に据え、改善・進化を繰り返し、地域に信頼され、誇りとされる学校づくりに努めたい。	【第1回学校運営協議会 令和6年6月26日】 ・1人1台端末の活用率については、確かな学力の育成に向けて、タブレット端末等の ICT 機器の活用にも努めている。現時点での、ICT 機器の活用に関しては、本校のほぼすべての教員が授業で取り入れている。タブレット端末においては、8～9割の授業で活用している。 ・登下校時の生徒の安全性について、生徒が安全・安心に学校生活を送るために、学校と保護者、地域との協力・連携及び交通安全教育を充実する必要がある。 ・1学年の校外学習の肯定的意見が高いことについて、今年度の第1学年校外学習の肯定的意見は 97.38%であった。その理由としては、1点めに、協同的な謎解きゲームなどの活動。2点めに、コロナ禍を経て、以前よりも生徒に行事を楽しもうとする姿勢が見られたことが挙げられる。 ・修学旅行等の国際交流については、今年度、沖縄への修学旅行における国際交流の実施について、現地で多国籍の方々との交流を予定している。 ・本校の生徒会等の取り組みについては、生徒主体で取り組ませている。受験の面接試験で不合格になる生徒が多かった。生徒が自分の考えを発言できるよう、活動において生徒が前に立って、教員は後ろで見守る場面を多く作るよう意識をしている。その結果、人前で発表する場面が増え、貝南サミットや 50 周年記念式典等の発表の場で成果を残すことができている。 ・教育 DX についての応募について、応募し取り組むことができると思うが、本校教職員は、様々なことに挑戦をし、成果を出していることも考え、オーバーワークを鑑みて応募はしなかった。 【第2回学校運営協議会 令和6年11月27日】 ・近年、4年制大学の進学実績を上げており、進学校としての一面も持ち始めてきた。 ・広報活動の一環として、公式 HP 以外にも SNS や動画配信サービスなど様々な手段で本校の取組みを中学生や保護者、地域に発信している。その取組みは本校の認知度を向上させる手段としては非常に効果的である。しかし、授業以外の業務が増加するなど教員への負担が懸念される。 ・本校の取組みや本校の生徒の生き生きとした姿を掲載したスクールライフのポスターが、本校のイメージの向上に非常に効果的であった。 ・生徒の希望する進路実現に向けて、第3学年では総合的な探究の時間を活用し、生命保険会社から講師を招きライフプランニングについて講義いただくなど、将来を見据えた 自主的・自立的なキャリア教育を推進した。 ・貝塚市立第四中学校との交流会を実施したことにより、中学生が先輩の姿を直接見ることができる良い機会となった。今後も継続して中学校との連携に努めていただきたい。 ・生徒の「闇バイト」等の犯罪行為への加担防止や非行防止に向けて、外部講師を招き社会の非行情勢や実態について講義いただくなど、非行防止教育に努める必要がある。 【第3回学校運営協議会 令和7年2月5日】 ・令和6年度学校経営計画学校評価に異議はなし。また、7年度の経営計画についても承認した。教育庁と協力して完成に努めてほしい。 ・教員アンケートでの、教職員の情報共有率の数値が高い背景として、常に職員室に教員がいることにより、情報共有しやすい環境が整えられている。また、職員室で、生徒が話題に上がることも増え、教頭への相談も増えている。 ・一般入試で大学受験する生徒に対しては、結果を恐れずにチャレンジさせてほしい。 ・今年度、遅刻者が多い理由は家庭による事情はあるかもしれないが、決まった時間に登校することは社会のルールであるので、生活リズムを整える指導をしてほしい。 ・コロナ以降で進学に関する数字が最も良いので、引き続き数字の維持に努めてほしい。 ・生徒たちの多くが進学をめざしていることを広報に役立てたい。 ・学校教育自己診断の保護者の回答率をもっと高める必要がある。 ・貝塚南の強みは“地元”で、地元を通して人と人のつながりが増えることが魅力であり、その点を広報に役立てたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R 5 年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究した学力向上 ア「生徒に育成したい資質・能力」、「めざす授業」の実現に向けて イ 学力向上をめざした取り組み	(1) ア・「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」を全教職員で共有し、授業力の向上を軸に実現に向かう。 イ・授業力向上の取組み（研修、相互授業観察、研究授業など）を計画的に実施する。	(1) ア・授業アンケートの結果平均ポイントを 3.2 以上とする。[3.34] イ・教員相互の授業観察を年間延べ 100 回以上[55 回] ・研究授業を年間延べ 5 回 [6 回]	(1) ア・職員会議や式典等において、めざす学校像の共通理解を図っている。結果、様々な教育活動において生徒、教職員への浸透が伺える。授業アンケート結果において、第 1 回・第 2 回の全体の平均ポイントが 3.31 となり、目標を達成した。今後も、生徒一人ひとりの教育的ニーズを深く把握し更なる進化に努めたい。(○) イ・教職員の資質向上のため計画的に教職員研修を実施した。特に、授業力については相互授業見学等を奨励し授業力の向上に努めた。相互授業見学は 87 回と目標に達していないが、昨年度より増加させており、否定的な結果ではないと捉える。(△) ・研究授業は 16 回の実施である。(○) 今後も継続させ、授業力の更なる向上に努めたい。
	ウ 授業アンケートの効果的活用	ウ・授業アンケート実施後、「授業アンケート結果」を活用するなど、各教員が結果を分析し、授業改善に努める。	ウ・学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定率 75%以上 [82.3%]	ウ・学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答が 78%であり目標を達成した。今後も様々な手段を講じて授業力の更なる向上に努めたい。(○)
	エ ICT 機器を効率的に活用した授業の研究・実施	エ・クロームブックを有効に活用するなど ICT 機器を活用した授業改善について研究を深め実践する。	エ・学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材や ICT が効果的に活用されている」の肯定率 80%以上 [84.9%]	エ・教員相互や様々な主体を招いての勉強会を開催する等、ICT が効果的に活用できるよう努めた。学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材や ICT が効果的に活用されている」の肯定的回答が 86%であり目標を達成した。(○)
	オ 自学自習の推進	オ・授業を通じて教科・科目の学習への興味、関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ・生徒の生活実態を把握し、ICT の活用を促進するなど授業以外の学習時間を確保し、学力の向上を図る。 ・自習室の積極的な活用を推進する。	オ・自主的に学習する習慣を高める基礎学力調査(9 月実施分)の 1 日あたりの学習時間 1 時間程度以上の割合 1 年、2 年 20%以上 [1 年 18%、2 年 16%]	オ・教科指導において宿題を課すなど、学習習慣の定着努めた。基礎学力調査の結果、1 日あたりの学習時間 1 時間程度以上の割合が 1 年生―20%、2 年生―16%であり、1 年生は目標に達しているが、2 年生は目標に達していない。主体的に学ぶ習慣を身に付けさせるため研究を深めたい。(△)
	カ 図書館の活用と読書活動の推進	カ・図書室の積極的な活用と、生徒図書委員活動を活性化させるなど、読書活動を推進し読解力を向上させる。	カ・校内読書感想コンクールの継続実施。図書室の活用の奨励。生徒図書委員会の活動を昨年並みとする。[3 回]	カ・読書感想文に 1,2 年生全員が取り組んだが、コンクール参加までのレベルに達しなかった。図書館通信等にて図書館活用や読書活動の奨励に努めた。生徒図書委員会の活動も 3 回実施した。学校教育自己診断(生徒)の「図書館の図書などを利用する」の肯定的回答が 25.4%であり、昨年度 22.8%より上昇させた。今後も読解力等の向上をめざし、読書活動の活性化に努めたい。(○)
	キ 特色ある教育課程の充実	キ・スクールミッション、スクールポリシーに対応した教育課程の充実を図る。	キ・教務部が主体となり、各教科において、スクールポリシーに即した特色ある教育課程についての協議を学期に 1 回以上実施する。	キ・各教科において教育課程について学期に 1 回考察を深めた。(○)

府立貝塚南高等学校

2 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成	(1) 生徒の希望する進路の実現 ア 関係機関との連携を深め3年間を通した進路指導に取り組む	(1) ア・3年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒、保護者とも共有し、都度キャリア発達を促す。	(1) ア・HR等を活用した学年全体での取り組み（外部講師による講演を含む）を昨年並みとする。[1年6回、2年11回、3年11回]	(1) ア・生命保険会社から講師を招きライフプランニングについて講義いただく等、多様な主体と連携したキャリア教育を推進した。HR等を活用した取り組みは、1年6回、2年11回、3年11回で昨年並みであった。今後も関係機関との連携をより深めすべての生徒の自己実現に努めたい。(○)
	イ 生徒情報の共有	イ・定期考査、基礎学力調査などの結果から生徒の学力推移を分析し、学習支援クラウドサービスを活用するなど学年、教科、分掌間で情報共有し進路指導に活かす。 ・進路便りの発行など保護者との情報共有にも努める。	イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定率65%以上[69.4%] ・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定率85%以上維持。[91.2%]	イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」における肯定的な回答は75.7%であり目標を大きく上回った。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答は89%となり目標を達成した。今後も機を逸することなく情報の共有、提供に努めたい。(○)
	ウ 計画的な講習の実施	ウ・進路目標達成に向け、教科、分掌、学年や外部機関との連携を深め多様なニーズに対応できる説明会や講習等を計画、実施する。	ウ・進学講習は全体で昨年以上実施。[55回] 教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEBドリル等の活用を加えて、より個々の状況に合わせた指導を進める。	ウ・進学講習は教科担当者や学年主体（一部進路指導部主体）にて合計114回実施し目標を大きく上回った。今後もより組織的な体制の構築を研究したい。(◎)
	(2)コミュニケーション能力の育成 ア探究的な学びの充実 (3)グローバル人材の育成 ア国際理解教育の推進	(2) ア・各授業、HR、総合的な探究の時間、学校行事等、あらゆる教育活動を通じて、他者と協働して課題を発見、解決しようとする活動や、情報収集、整理、分析、まとめ、発表する活動を行う。 (3) ア・国際交流、SDGsの視点を踏まえた授業、HR、「総合的な探究の時間」、特別活動等の実施及び関係機関と連携し異文化に触れる機会を確保するなど、国際社会に貢献できる能力を育む。 イ・英語運用能力の向上を図る。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定率80%以上維持。[87.9%] (3) ア・学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定率75%以上[82.0%] イ・英語検定受講者数など、100名以上維持。[133名]	(2) ア・全教育活動を通して探究的に学ぶ機会の充実に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答が86%であり目標を達成した。(○) (3) ア・韓国のインチョン・ナショナル・ユニバーシティーからの学生の受け入れ、外務省大臣官房国内広報室主査よりの講演、大阪国際交流財団との連携等、国際理解教育を推進した。学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答が84%となり目標達成とともに昨年度を上回る高い肯定率を獲得した。(◎) イ・英語検定が89名の受験者となり目標に達していない。ただし、受験料上昇等の影響があり否定的な数値ではないと捉えている。進路実現の一助ともなり、今後も奨励したい。(○)

府立貝塚南高等学校

3 安全安心で魅力のある学校づくり	(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 子ども理解 (アセスメント) 力を充実させ、生徒の規律性を育む。	(1) ア・全教育活動を通して個々の生徒理解に努め、正確な情報の共有を図ると共に、成長や支援ニーズのアセスメントとそれに基づくプランニングを充実させる。又改訂された生徒指導提要に即した規律指導を展開し、社会の一員としての自覚を促す。	(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定率 80%以上[76. 5%]。 ・発達支援的生徒指導体制を充実させる。 ・年間述べ遅刻回数 2, 000 回以下。[2469 回]	(1) ア・SSW の視点に立った生徒指導実践のため、都度、生徒理解と保護者との連携を深めるよう努めた。学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答が 92. 7%であり目標を大きく上回った。今後も教職員間におけるコミュニケーションをより深め、多様なニーズに対応した指導、支援に努めたい。(◎) ・改訂された生徒指導提要について研修報告会を開催する等、全教職員の理解を深めた今後も生徒指導提要に準じた指導、支援の徹底に努めたい。(○) ・遅刻数が 3576 回となった。今後もより生徒理解に努め、保護者等との連携にて遅刻防止に向かいたい。(△)
	イ 教育相談・支援体制の充実	イ・SC、SSW、関係機関などとの連携を強め個に応じた支援の充実を図る。	イ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的率 75%以上維持。[86. 4%] ・就学支援会議、ケース会議の開催。	イ・教職員一同、生徒理解をより深め、SC、SSW 地区の支援教育サポート教員、主治医等と連携し、機を逸することのない対応に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答が 90%であり目標達成とともに昨年度を上回る高い肯定率を獲得した。(◎) ・定期的なケース会議を年に 3 回、個別支援のため、就学支援会議を年 8 回開催した。個に応じた支援の充実が伺える。(○)
	ウ 互いの違いを認め合い、「共に学び、共に育つ」精神を育成する。	ウ・多様性やともに生きる社会を理解できる人権教育を推進する。 ・いじめ事象の発生や深刻化を防ぐとともに、いじめを許さない生徒を育成し、その根絶に向かう。	ウ・学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定率 85%以上[89. 8%] ・学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応」の肯定率 80%以上[86. 3%]	ウ・全教育活動を通して共生社会実現に向けての意識の醸成に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答が 90%であり目標達成とともに高い肯定率を維持した。(◎) ・人間関係のトラブル等については、いじめ対策委員会を積極的に開催し、人間関係形成能力の向上、いじめ阻止、拡大及び再発防止にチーム対応にて努めた。学校教育自己診断(生徒)の「先生はいじめに真剣に対応してくれる」の肯定的回答が 89%であり目標達成とともに昨年度を上回る高い肯定率を獲得した。(◎) 今後も、生徒、教職員がより人権感覚を磨き多様性理解とともに、いじめの撲滅及びスクールミッションの骨子である Well-being な学校づくりに努めたい。
	(2) 特別活動を通じ、主体性や協働生の育成及び豊かな高校生活の実現 ア 大阪モデルに準じた部活動の活性化 イ 学校行事の活性化	(2) ア・人と人との交流を通じた多様な学びの場として部活動の活性化を図る。 イ・校外学習、体育祭、文化祭などの内容について検討し、より充実させる。	(2) ア・体験入部を継続し部活動加入率 55%以上維持。[64. 6%] イ・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 80%以上維持。[89. 9%] ・「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 80%以上維持。[93. 0%] ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 80%程度維持。[83. 0%]	(2) ア・多様な学びの場として部活動の活性化に努めた。今後も働き方改革や本府の示す部活動方針に沿いその活性化に努めたい。部活動加入率が 61. 1%であり目標を達成した。(○) イ・学校生活を充実させる一助として、生徒の主体性の向上を軸に据え学校行事の活性化に努めた。学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答 89%であり目標達成とともに高い肯定率を維持した。特に、来場者数も 902 名となり、昨年度 644 名より大きく上回った。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)の「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答が 92%であり目標達成とともに高い肯定率を維持した。今後も学校行事を充実させ、生徒のチャレンジ、自立、共生の意識の醸成に努めたい。(◎) ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が 84%であり目標達成とともに昨年度を上回る高い肯定率を獲得した。今後も個々の教育的ニーズの把握に努め、ポイントの上昇をめざしたい。(○)
	(3) 保護者等との連携及び学びを支える環境整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備	(3) ア・日常的に家庭との連絡を充実させ、協同にて生徒理解に努め、個別最適な支援を実践する。 イ・環境美化への意識を高め清潔で整備された教育環境を維持する。	(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定率 75%以上[74. 0%] イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定率 60%以上維持。[71. 1%] ・保護者との連携による内外美化活	(3) ア・日常より、口頭、紙配布、教育支援クラウドサービス等を効果的に活用し、保護者との連携協力に努めた。学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答が 78%であり目標を達成した。今後も様々な教育情報をよりタイムリーに発信する等、保護者との信頼関係の確立に努めたい。(○) イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答が 70%であり目標を達成した。(○) ・保護者との連携による校内美化活動及び校外美化活動を 3 回実施した。又、保健部による定期的な点検や校長による校舎内外

府立貝塚南高等学校

	ウ 防犯および防災、保健、安全、衛生管理に対する指導の徹底	ウ・地域や関係機関との連携により防犯及び防災計画を作成する。又、日常より災害や感染症、熱中症、食物アレルギー等に対する意識を醸成し、未然防止とともに災害や事故発生時における迅速かつ適切な対応に努める。	動の継続[3 回]	の巡回等、日常より美化意識の醸成に努めた。 (○)
4 地域・保護者と連携した学校づくり	(1) 広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信 イ 学習支援クラウドサービスによる情報発信 (2) 地域との連携 ア ボランティア活動の発展的継続 イ 地域の学校等との連携 (3) 保護者との連携 ア 保護者向け進路説明会の実施 イ 保護者への進路情報の積極的発信 ウ 検定受験料補助制度の充実	(1) ア・広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページや様々なブログの更新を活発に行い開かれた学校づくりをより推進する。 イ・学習支援クラウドサービスを有効に活用し、よりタイムリーに保護者等への情報発信を行う。 (2) ア・KEYS（貝塚警察署と連携した大阪府内唯一のボランティアチーム）の活動を深化させるとともに、ボランティア意識の向上を図る。 イ・ 中学校との交流、近隣の保育園での保育体験実習や防災避難訓練時の連携の継続等、地域との連携を充実させる。 (3) ア・保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。 イ・進路だよりなどの配布とともに、学習支援クラウドサービスなど、ICT をより有効に活用し保護者などへの情報発信を充実させる。 ウ・資格取得を奨励し将来を見据えた自主性、自立性を育成する。	(1) ア・様々なブログの更新合計、年間 100 回以上[293 回] ・学校説明会の開催を継続させる。 イ・保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。 (2) ア・KEYS の活動を継続して実施する。[9 回]。その他ボランティア活動を推進する。 イ・保育体験実習を継続する。[6 回] ・防災避難訓練への協力を継続する。 ・中学校や地域との連携活動を継続する。[中学校 39 回 地域 4 回] (3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率 65%以上[69. 4%] イ・ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定率 60%以上[62. 0%] ウ・検定受験者数 200 名以上 [358]	(1) ア・学校案内の刷新並びに同窓会との連携にて、広報ポスターを新規に作成し電車内や主要駅での掲示、中学校に出向き 3 年生を対象とした、本校の概要説明、又、メディアを活用する等広域広報に努めた。更に、様々なブログを積極的に更新した。校長ブログ 76 回、スクールライフ貝南ブログ 176 回、生徒インスタグラム 302 回合計 554 回の更新であり昨年度より大きく上回っている。 (◎) ・学校説明会の内容を一部刷新し。昨年度並みに 4 回実施した。特に、9/7 に実施した夏のオープンスクールは 234 名の参加者があり、昨年の 161 名を大きく上回った。今後 も特色をより明確化させ、府民に選ばれる学校づくりに努めたい。 (◎) イ・教育支援クラウドサービスへの登録は 100% を維持している。 (○) (2) ア・「KEYS」の活動を有志生徒により実施した。19 名の生徒が貝塚警察より委嘱を受け、非行防止活動や田植え、児童虐待防止キャンペーン等の取組みを 6 回実施した。今後 も更に発展させ地域に根ざした学校をめざしたい。 (○) イ・近隣保育園での保育体験実習を 7 回実施した。 (○) ・11/13 には生活と保育選択生徒参加のもと、保育園の避難訓練に協力し地域ぐるみで防災意識を醸成させた。 (○) ・生徒会が中心となり 9/3 に貝塚市立第 4 中学校 1 年生との交流会を本校にて新規に実施する等、部活動における合同練習会を含み、中学校と 33 回、地域と 7 回の連携活動を実施した。 (○) (3) ア・保護者に対して、懇談期間を活用して様々な説明会を開催した。又、日常的な教育情報の提供等、連携を欠かさず、すべての生徒の自己実現に努めた。学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率は 75.7% であり目標を大きく上回った。 (◎) イ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定率は 65.2%であり目標を達成した。今後もより効果的な情報提供について研究を深め、保護者との信頼関係の確立に努めたい。 (○) ウ・チャレンジ精神の向上と自己実現の一助として資格取得を奨励した。受験者数は 258 名であり目標を達成した。 (○)

府立貝塚南高等学校

5 教職員の資質向上と意識改革	(1) 個々の教員がスクールミッションを理解し、学校運営に参加する意識をもって業務に当たる。 ア 教員間での情報共有を充実させるなど、チームで働く力を育み組織目標の達成に向かう。 イ ICT 機器を効果的に活用し校務の効率化を図る ウ 危機管理体制の充実	(1) ア・口頭や ICT を併存的に活用し、よりタイムリーに教育情報の共有を図り同僚性を高めながら、学校力の向上に努める。 イ・外部人材、教員相互の支援体制を充実させ教職員の ICT 活用能力の向上に努め校務の効率化に繋げる。 ウ・危機管理に対する様々なガイドラインの精読や法的対応の理解を含めた注意喚起などを断続的に行い教職員間における危機管理意識を向上させる。	(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率 70%以上[73. 5%] イ・学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率化を図ることができた」の肯定率 80%以上[82. 4%] ウ・学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率 80%以上[76. 5%]	(1) ア・スクールミッションの骨子を様々な場面で発信し存在意義の共通理解に努めた。生徒との対話の中でも well-being が確認される程である。学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率が 85. 4%であり目標を大きく上回った。学校運営への参画意識の高まりが伺える。(◎) イ・HP の更新、デジタル採点、入学者受付に関する研修会を開催する等、ICT のより効率的な活用に努めた。学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定率が 85%であり目標を達成した。(○) ウ・個人情報保護や食物アレルギーに関する研修会の開催等、日常より危機管理意識の醸成に努めた。学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率が 78. 1%であり目標に達していない今後、教職員研修を充実させる等、研究を深め安全で安心な教育環境の維持確立に努めたい。(△) (2) ア・教職員研修等を計画的に実施した。又、教職員が共に高め合う職場環境づくりに努めた。職員研修 6 回、学年集会型 5 回、HR 型 1 回合計 12 回の実施となり目標を達成した。(○) ・相互勉強会は、教育支援クラウドサービスについて、等 14 回の実施となり目標を達成した。(○) イ・外部への研修会等への参加は 4 名 9 回 (○) (3) ア・校務の効率化のため 10 項目の定着と共に、。企画、運営、学年会議等の開催回数をほぼ半減させた。ICT については授業をはじめ、アンケートでの活用等、様々な教育活動にて効果的に活用した。(○) イ・ストレスチェック結果における職場のサポートについては、健康リスクが 110 となり昨年度よりやや下降傾向にある。しかし総合健康リスクは昨年度に比べやや上昇傾向にある。効率的な職務推進に関する資質や能力の向上、働き方に対する意識改革等を推進し更なる職場環境の改善に努めたい。(○) ウ・時間外在校等時間 80 h 越えの年間累計合計対象者数が 32 名となり目標に達していない。今後も対象者に対するヒアリングを更に充実させると共に、効率的な業務推進に関する資質、能力の向上を図り、その縮減に努めたい。(△)
	(2) 実効ある教職員研修の実施と相互授業見学や勉強会の充実、及び外部の研修への積極的な参加を奨励し教師力の向上を図る。 ア 教育改革やニーズに対応した教職員研修の実施 イ 他校への授業見学等や研修会への参加	(2) ア・教職員の資質向上をめざした教職員研修の実施と、教員相互における勉強会の実施 イ・他校への授業見学や研修会等への積極的な参加を奨励する。	(2) ア ・教職員研修 10 回程度[8 回] ・勉強会 10 回程度[18 回] イ ・他校への視察を 2 回以上行い、可能な限り校内で研修報告会を実施する。[2 回 4 名]	(2) ア・校務運営効率化のための 10 項目の更なる定着を図る イ・ストレスチェック結果における職場のサポートを前年度より改善させる。[112] ウ・時間外超勤務者の年間累計数を減少させる。[32 名]
	(3) 働き方改革の取り組み ア 校務運営の効率化 イ 働きやすい職場環境整備 ウ 安全衛生委員会の充実	(3) ア・ICT の有効活用、会議の精選や委員会組織のスクラップ&ビルドなど校務運営の効率化に努める。 イ・環境整備と共に、支え合う意識を醸成し心身共に健康な状態が持続できる温かい職場環境の構築をめざす。 ウ・部活動方針の遵守や時間外超勤務者へのヒアリングを充実させるなど、働き方に対する全教職員の意識改革に努める。		